

令和元年度第2回高知県産業振興計画フォローアップ委員会水産業部会 主な意見等

日時：令和2年1月30日（木） 13:30～14:30

場所：水産会館

出席：部会員9名出席、2名欠席

議事：（1）第4期産業振興計画〈水産業分野〉の全体像（案）について

（2）第4期産業振興計画〈水産業分野〉の重点施策（案）について

概要

- ・取組内容等について反対意見はなし。
- ・新たな漁法の導入や漁船のレンタルについて意見があった。
- ・高知マリンイノベーションの漁場予測の取り組みについて複数の意見があった。

（1）第4期産業振興計画〈水産業分野〉の全体像（案）について

（中田部会委員）

- ・漁業生産の構造改革における高知マリンイノベーションの推進については、重点施策の資料を見れば対象魚種がメジカとキンメダイであることがわかる。漁場の有効活用については定置網漁業だとわかる。全体像の資料に対象魚種を記載してはどうか。漁場の有効活用についても同様。
- ・漁業生産の構造改革については、カツオに関する記載が無い。これまでも色々ご指導・支援はいただいているが、新しい取組を考えているのであれば、カツオ、マグロについても記載いただきたい。

（田中水産振興部長）

⇒ご指摘ありがとうございます。現在、高知マリンイノベーションにおいて具体的に取組を進めているのはメジカとキンメダイであるが、今後は他魚種にも取組を拡大していきたいと考えている。小型底定置網とカツオの記載については、どのように資料に反映するか検討させていただきたい。

（中田部会員）

- ・了解した。

（松村水産振興副部長）

⇒カツオについて4期計画では記載していないが、取組を行わないということではない。

（2）第4期産業振興計画〈水産業分野〉の重点施策（案）について

（山下部会員）

- ・新漁法については、1～2人で操業できることが利点と説明があったが、大型船であれば機械化によって可能と思うが、漁業者の高齢化が進む中、本当に1～2人で操業できるのか。それとも1～2人で操業は可能であるが、作業が大変なのではないか。操業を工夫することはできるのか。

（池漁業管理課長）

⇒大型定置網の場合、10～20人必要になるが、小型底定置網の操業は1時間程度で、1～2人で操業できることが利点。県内に導入し、高齢者や他の漁業種類との副業として取り組んでいただきたいと考えている。

（山本部会員）

- ・小型底定置網で水揚げする際は、網を揚げるだけでよいか。網の高さは何メートルくらいか。

(池漁業管理課長)

- ・最も小さいもので網の高さが6メートル。九州では、6メートルサイズの網で500万円程度の水揚げ実績がある。9メートルサイズの場合は、2～3名の操業で、1,500万円程度の水揚げ実績がある。

(浦尻部会員)

- ・土佐湾には無いのか。宿毛湾にはある。小型底定置網は早く水揚げしないと魚が擦れる。

(池漁業管理課長)

- ・澳本部会長にも相談させていただき、土佐湾にはないと聞いている。

(浦尻部会員)

- ・県が新規就業者を何とか増やしたいという思いは理解した。漁船のレンタルについては、利用できない漁協があったり、トラブルがあつては困るので、最善の仕組みを検討していただきたい。

(岩崎漁業振興課長)

⇒これから実施要領などを定める。漁協が漁船を取得することになるため、リスクヘッジ等もしっかりと調整していきたい。水産庁にも確認しているが、漁船リースに繋げる仕組みとして、本日いただいたご意見を踏まえてより実行性のある取り組みにしていきたい。

(浦尻部会員)

- ・ブリの人工種苗生産の推進については、土佐湾には天然のモジャコ業者がいるが、モジャコ業者からの反発はないか。

(岩崎漁業振興課長)

⇒あくまで輸出用の人工種苗の生産であり、天然のモジャコとの競合しない旨をしっかりと説明させていただき、ご理解をいただいたうえで取組を行う。

(浦尻部会員)

- ・人工種苗生産のブリを海外に販売する際に補助を行うということか。ブリの国内相場が海外より高い場合、国内で販売してはいけないといった制限はあるのか。

(岩崎漁業振興課長)

⇒支援策では種苗経費に対して支援させていただくこととしており、輸出に繋がったことを確認したうえで支援をさせていただくスキームとしている。

(浦尻部会員)

- ・理解した。天然のモジャコに比べて成長が悪いと仕入れにくいと思われる。

(山下部会員)

- ・データを一元化することは良いことだと思うが、海の状況はこの2年間で大きく変化しており、データを収集することができるのか心配する。メジカでは水揚げが2ヶ月遅れになっていることに加え、夏場に漁場が形成されないことから、加工施設は海外からの仕入れを増やさざるを得ない状況。銚子沖のサバについても、水揚げが2ヶ月遅れる等、海の状況が変わってきている。メジカについては、日本沿岸から大陸沿岸に漁場が移動しているのではないかと。このようなことについてどのように考えるか。

(松村水産振興副部長)

⇒現在のメジカの漁場予測は過去の知見をもとに行っているが、過去のデータだけでなく、新たなデータを収集することで予測精度の向上を図っていきたい。

(澳本部長)

- ・ 山下委員から説明があったように予測ができない事態が発生している。2～3日前の大雨でも県東部の定置網では被害出ている。このような状況のなかで、高知マリンイノベーションは新しい取組である。これからは予測が非常に重要になってくることから、取組をお願いしたい。

以上